拝啓　今年も早や3月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、木蓮やこぶしが青空に映えて咲いており、今咲き初めの桜もエンカウンターが届くころには満開になっていることでしょう。

今回は、小西芳之助先生の『コリント人への第一の手紙講解説教』からの引用の10回目ですが、今回のエンカウンターの5ページ、「救いとは、キリストの持ち給う永遠に命をもらうこと」という項目には、次のように書かれています。

「この第1の根本問題ががっちり分かっていない人が多い。救いとは、人間がキリストの持ち給う永遠の生命をもらうことですが、それが分かっていない。第2の問題、救われるためにはどうすればよいかと言えば、人間の如何なる行為、その他如何なる心の状態をも必要とせず、ただ、イエス・キリストが十字架にかかって、我々のすべての罪を贖って下さり、我々に永遠の生命を与えて下されたということを信じること、その力を受けることだけで救われることです。そして最後の問題、この世ではどうするかという問題は、天国の復活をめがけて目の前に与えられた仕事をなすことです。」

小西先生に繰り返し繰り返し教えて頂いている信仰と行の要約だと思います。

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

小西芳之助先生『主の御名を呼ぶ』3月22日

「主の名を呼びつつ――私のキリスト教

「ロマ書10章13節にいう『主の御名を呼び求める者はすべて救われる』というのは「わが主イエスよ」と言うことが「イエスに対する信仰によって罪の赦しと潔められたる者のうちの嗣業とを得」（使徒行伝26章18節後半、文語訳）たることを意味するからである。「わが主イエスよ」と言うことは、なお、私の祈祷でもある。また、私の感謝でもあり、私の喜びでもあり、また、私の平安である。

私にとって、「わが主イエスよ」と言うことは、ロマ書12章1節の「私のからだを生きた供え物として神に捧げる」ことである。

私のキリスト教はなんと容易なことよ。その訳は、主の御名を称えつつ、普通の日常の生活をするに過ぎないからである。」

新渡戸稲造先生『一日一言』3月22日

「西暦1832年の今日、ドイツの文豪ゲーテが世を去った。才能あらゆる方面に向いて卓絶せる彼は、常に「急ぐなかれ、たゆむなかれ」の主義を守りて、かの大業を残した。なすべきこと、なしたきことを数うれば、気のみせわしく、何より始めんかと迷うばかりにして、その揚げ句何もせずに一生を終わるのみ。終生の業は、その日その日の義務を完了するよりほかにない。」

松下幸之助先生『続 道をひらく』「年の暮れ」

「なんとなくせわしくなってきた。毎年のことで、別にどうということはないようにも思うのだが、やはり年の暮れというと落ち着かない。

だがしかし、こんな思いがあればこそ、この１年のしめくくりもできるのであろう。年内余日もない今日この頃でははあるけれど、いまからでもおそくない。できるかぎりのことはしておこう。およばずながらもやってみよう。今や一日が尊く、1 時間が貴重なのである。

そんな中でも、世と人に対する感謝の気持ちだけは忘れまい、この一年、ともかく過ごし得たのは、自分一人の力ではない。あの人のおかげ、この人のおかげ、たくさんの人のたくさんの善意と好意のおかげである。時にやり切れない思いに立ったこともあろうけれど、最後はやっぱりこの感謝の思いにかえりたい。それでこそこの年の暮れである。」

内村鑑三先生『一日一生』3 月 8 日

「イエスの宿りたもう信者といえども、その肉体は生まれながらの罪の故に死するものである。去れどもイエスは信者に宿りたもうにあたってその霊魂に宿りたもうがゆえに、霊魂はイエスの義の故に生く。自己の罪のゆえに肉体は死し、イエスの義のゆえに霊魂は生く。信者にありては、復活は彼の霊魂をもって始まるのである。されども信者の復活は彼の霊魂をもってとどまるものではない。イエスの霊の宿るところとなりて、復活は霊魂よりさらに肉体に及ぶのである。人は霊魂のみではない。また肉体のみでない、霊魂と肉体とである。霊肉は彼の実在の両方面である。ゆえに霊魂にはじまりし復活は、肉体にまで及ばざるを得ないのである。」

バークレー先生『一日一章』3 月 8 日

「いまやりなさい

いつでもやれるし、いつでも見れるというものがある一方、チャンスがなければやれないし、一生に一度しか見れないというものもある、これは人生の法則である。今いった後の方のものを見、またやろうと思うなら、そのチャンスをつかまなければならない。それは 2 度と訪れないのだから。

相手がいるうちに愛と感謝の気持ちを伝えるべきである。」

カウマン先生『日の出に向かって』2 月 28 日

「肉体と違って精神は、年とともにはおとろえません。たとえ年をとっても、私たちは死ぬまで豊かに創造的に生き続けることができるのです。

ああその時、私達は空しく座って言うだろうか

夜が来た。もう昼ではない

若い時とは様子が違っているが、老人には若い人より機会がある

夕方の黄昏がうすれ行くにつれて、空は昼間には見えない星で満ちる。

わたしたちの人生は、終わりまで豊かで、新鮮でさわやかに感動したものであり得る。」

蔓延防止措置の警告期間が終了しましたが、なお感染に注意を払い、マスク、手洗い、うがいなどはこれまで同様実行されて、十分ご注意下さるようお祈り申し上げます。

3 月 22 日　　山口周三

エンカウンターの読者各位